

まつど・心の教育を今再び

かつて私が議員になりたての頃、尊敬する先輩議員のお一人が市議会壇上で「まちにとって一番大事なことは住む人間が立派かどうかだ。立派というのは何もお金を持っているだけでなく、公共心が高く、責任をきちっと遂行してくれる人だ。」と話されていたことが強く印象に残っています。

松戸市は人口 50 万人に達しましたが、大切なことは人口数もさることながら、人情豊かな人たちが互いに認め合い、時には支え合いながら安心して暮らせるまちであるかどうかだと思います。

そして、まちは未来へと継承されます。私たち大人は、自らの有りように加えて、次代を担う子どもたちに豊かな人格を持って成長し、これからの社会を担って欲しいと願っています。それこそが「未来の希望」です。

今から 20 年以上前に、松戸市議会の先輩同志の皆さんと一緒に、教育の問題を学校だけに任せてよいのかとの共通認識のもとに、それならば私たち市民の役割は何か、私たち市民はどう責任を果たせばよいのかを改めて考え、かんかんがくがくの議論をしました。そしてその結果、私たち大人が持つべき心構え、為すべき取り組みを「まつど・心の教育」としてまとめ、街頭などでそれを訴えて行動したことを思い起こします。

久しぶりにその当時に作成した冊子を読み返す機会を得て、今も尚、子どもたちを取り巻く環境は変わらず、むしろ状況はますます深刻になっているのではないかとの思いから、再び心の教育の旗を掲げようと考えました。

時代の変化と共に教育のあり方も変わることが求められ、とりわけデジタル技術の発展によりバーチャル（現実ではなくコンピューター技術によって創られた）な学び、知識の習得が主流となる中で、社会を構成する人としての心構えの大切さを改めて考えさせられます。

住んでよいまち・日本一をめざして、次代の担う子どもたちに夢を託し、今、私たちができること、すべきことを行っていきたいと考えます。

末松ひろと

まつど・心の教育

大人の心を変えることから心の教育を

今、子どもたちを取りまく環境は、詐欺などの犯罪や暴力事件、学校でのいじめなどが毎日のように続発する深刻な状況にあると危惧しています。

一例を挙げますと、昨年の文科省の調査では、認知されたいじめの件数は小学校が59万件、中学校が12万件で、前年よりも5万件余り増えて過去最多となっております。

こうした問題の根底には、社会で守らなければならない人としての基本的なルールを体現する力が弱くなっていることがあるのではないかと考えます。

昨今、心身ともに耐性を欠き、自分をコントロールできない子どもが増え続けているとよく指摘されますが、そうした子どもたちを育てているのは私たち大人だということを改めて認識しなければなりません。中でも親の果たすべき役割は重要です。

今こそ、私たち大人が次代を担う健全な若者を育てるためにどうあるべきか改めて意識して行動することが大切なのではないのでしょうか。

「まつど・心の教育」とは、次代を担う子どもたちに対して、親や大人が責任を持って正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上で当然の心得を伝えていくことを掲げて行動しようとするものです。

その取組みの行動主体は家庭、学校、地域、社会全体であり、それぞれの役割や責任をしっかりと分担して推進していくことが重要です。

それぞれの市民が主体的に捉えて、今、私たち大人は何をすべきか、一人一人の市民に自分ができる行動を促し、松戸市全体で取り組みながら、心豊かな子どもたちを育てていけたらと考えます。



心に希望を実らせよう

「まつど・心の教育」の行動主体は、家庭、学校、地域、社会全体です。

社会の基本的なルールや、思いやりの心、地域や社会のために役立つことに喜びを見出せる心を子どもたちにどう身に付けてもらうか。次代を担う子どもたちが、すくすく育つよう、「まつど・心の教育」を推進していきます。

子は親を見て育つといいますが、心の教育で重要な役割を果たせるのは親であり、そして私たち大人です。

家庭で、学校で、地域で大人がどのようにして子どもたちに接し、そして社会の中でありうべき心を教え、伝えていくか。その役割はきわめて重要です。

松戸市は自然に恵まれ、公園などの施設なども整備されていて、大人と子どもがふれあえる環境が整っています。

身近なところで、身近なことから。私たちみんなで、この心の教育を実りあるものにしていきたいと考えます。



心の栄養は家庭で（家庭の役割）

ルールを守る、思いやりの気持ち、人との付き合い方など、豊かな心を育むために家庭は重要な場となります。乳幼児の頃から、日々の行いを通して育んで行きましょう。

あいさつ ～「おはよう」と「おやすみなさい」で気持ちよい一日を～

「おはよう」で一日を始め、「おやすみなさい」で一日を締めくくる。

あいさつは生活の基本となります。家庭でもきちんと受け応えを行い、日々のあいさつを省かずに行って心を通わすことを習慣にしましょう。

ルール ～ルールを守るという教えは家庭で～

社会のルールやマナーを守ることを、家庭での日々の行いを通して教えることが大切です。押し付けではなくわが子への愛情として、自然に身に付けられるようにしましょう。

きずな ～子どもと一緒に食事をしましょう～

その日に学校であったことを話したり、子どもの健康状態や変化に気を付けたり、食卓は家族の大切なコミュニケーションの場となります。子どもと一緒に食事をする時間を大切にしましょう。



～わが家のルールや行事をつくりましょう～

テレビやゲーム、SNSの時間を決めたり、お正月の書初めで一年の目標を書いたり、あるいは家事の手伝いなど、家の中での決まり事を設けて皆で取り組むことで、家族のきずなを強めることができます。親子で共通の趣味を持ったり、スポーツを楽しむこともコミュニケーションを図るうえで有意義なことです。

マナー ～人に迷惑をかけたときはきちんと教えましょう～

子どもがしたことでも人に迷惑をかけたときは、親や大人がきちんと教え諭しましょう。善悪の区別は幼児期からしっかり身に付けることが大切です。

～他人から注意されたときには一緒に考えましょう～

子どもは、教え諭されることによって時と場所に応じたふるまいを身に付けていきます。子どもが学校の先生や他人から叱られることがあったら、親はまずそのことを一緒に考えましょう。

思いやり ～他人をいたわることの大切さを教えましょう～

乗り物の中で高齢者や体の不自由な人に席を譲る、荷物を持ってあげるなど、弱い立場の人をいたわり、自然に行動に移せる気持ちを育みましょう。
良い行いをすれば、自分も心が晴れやかになることが子ども心に芽生えることも大切です。

がまん ～自分をコントロールする力を付けさせましょう～

物が豊かな時代ですが、欲しがるものを買ってあげるだけでなく、状況に応じてがまんすることや、物を大切にする心を育みましょう。

自然とのふれあい ～自然の厳しさ、自然の美しさを肌で学ばせましょう～

海や山などへ出かけたり、身近にあるまつどの自然の中で遊ばせたり、子どもたちに自然の力を直接肌で感じる機会をつくりましょう。



先生と親と子で心の体験学習を (学校の役割)

学校を「地域の学校」として、先生と親子はもちろん、様々な人がふれあう体験学習広場になれば、学校は子どもにとってより有意義なところになります。

あいさつ ～自然にあいさつできるよう、先生から声をかけましょう～

先生が自ら行動で示し、お互いが自然にあいさつするような学校環境をつくりましょう。

ルール ～ルールを守ることの大切さを教えましょう～

学校生活になぜルールが必要か、またルールを守ることの大切さを子どもに教えましょう。

助け合い ～チームワークの中で競争と協力を学ばせましょう～

生徒会や文化祭など学校の中での活動や行事を通して、自ら進んで行動を起こすことや、異なる意見をまとめて仲間同士で連携することの大切さを学ばせましょう。



～奉仕活動などの社会貢献の機会をつくりましょう～

地域にある福祉施設の手伝いや公園の清掃などの奉仕活動を通して、社会に貢献する気持ちを育みましょう。

奉仕活動により、働くことへの興味を持たせることもできます。助けることで喜ばれ、それが自分の喜びにもなるということを体験として知ること大切です。

**思いやり ～動物や植物の世話を通じて、思いやりの気持ちや命の尊さを
学ばせましょう～**

動物を飼育したり植物を育てるなど、生き物の世話をすることによって、命を大切に
する心や生き物を慈しむ心が育ちます。子どもたちが責任をもって動植物の世
話が
できるような機会をつくりましょう。

役割分担 ～しつけは家庭の役割でもあることを伝えましょう～

学校はしつけ教育の手助けをすることはできますが、本来のしつけの場は家庭
の役割であることをきちんと伝えましょう。

地域の学校 ～学校をまつどの人と子どもがふれあえる舞台にしましょう～
学校を舞台として大人と子どもがふれあう場を広げ、「地域の学校」という意
識を醸成していきましょう。



～松戸で活躍する人を講師として招きましょう～

子どもたちにまつどの良さを知ってもらうために、地域等で活躍する人材を講
師として招きしょう。まつどに生まれたことに誇りを持ち、子どもの夢を広
げることができます。

「子どもは社会の宝」子どもの育成に地域や企業も (地域の役割)

まつどに生まれて良かった、まつどがますます好きになった。まちづくりの基本となる心づくりに、市民の皆さんそれぞれの立場で取り組みましょう。

あいさつ ～あいさつを自然に交わせる心を育みましょう～

自分たちが暮らすまち中で、「ありがとう」や「ごめんなさい」などのあいさつが自然に飛び交う、ゆとりある心を育んでいきましょう。

公共心 ～子どもの迷惑行為はきちんと教えましょう～

人中で大声で携帯電話をかけない、ポイ捨てをしないなど、公共の場でのマナーの大切さをきちんと教えましょう。

きずな ～お互いに顔の見える地域の関係をつくりましょう～

「子どもは社会の宝」です。地域で顔の見える関係を築き、子どもたちを地域の子どものとして応援し、コミュニケーションを図りながら共に育んでいきましょう。



～子どもの群れ遊びを復活させましょう～

テレビ、ゲーム、SNS などの一人遊びが多くなった

子どもたちに、地域のイベントなどで昔ながらの子どもたちの遊びを体験してもらうことも良いことでしょう。

集団の中で、子どもたちが人と人のきずなや人間関係の基本を身に付けていくことが大切です。

地域愛 ～地域の歴史、文化を大切にする心を育てましょう～

まつどに古くから伝わる文化、史跡などに子どもたちを触れさせ、まつどに対する興味を深め、まちを愛する心を育てましょう。

～まちの行事にどんどん子どもたちを参加させましょう～

行事の準備段階から参加することで、共同作業を通して人とのつきあい方を身に付けるとともに、まちや地域への愛着を深めることができます。



～子どもたちと一緒にまちをきれいにしましょう～

美化運動などまちのために貢献する活動を通して、自分たちの地域を愛する気持ちやマナーを大切にする心を育てましょう。

体験学習 ～商店、企業、農家などで子どもの体験学習に協力しましょう～

地域の商店、企業、農家などで積極的に子どもたちを受け入れ、社会の最前線で働く現場を子どもたちに体験させましょう。また企業においてはスポーツ大会等、親子が参加できる行事を運営し、子どもの育成に貢献していきましょう。

～大人が子どもたちに知恵や経験を伝える場をつくりましょう～

大人が、地域の催し物や近所の学校や保育園、児童館の行事などで、豊かな知恵や経験を子どもたちに伝えましょう。

松戸市子育て情報サイト

まつどDE子育て



松戸市の子育て支援策はこちらから→